

令和3年度 学校評価報告書

学校名

三田市立あかしあ台小学校

1 学校教育目標

2 今年度の学校重点目標

こころ豊かに たくましく生きる 子どもの育成

- 1 「確かな学力」の育成 2 「豊かな心」の育成 3 「健やかな心」の育成
- 4 多様な教育的ニーズに応じた教育の推進 5 開かれた学校づくりの推進

3 総合的な自己評価

4 総合的な学校関係者評価

学校運営については、「学校・家庭・地域が連携して、子ども達を見守り育てている。」「学校生活を通して、心豊かにたくましく生きる子どもの育成がなされている。」の項目において、97%以上の肯定的評価を得ている。地域との連携も深まり、教育活動等において信頼と協力を得ることができている。今後、引き続きコロナ禍での緊急の対応、柔軟な対処が課題である。

コロナ禍の中、制約の多い中でも行事などを工夫し、子どもは元気に学校生活を送っている様子が見えてきた。保護者や地域から学校に対する信頼感が高いと感じられる。目標については、数値化されていて成果と課題がよく分かった。課題については、挨拶の定着や、コロナ禍の気の緩み等があげられる。今後も課題解決に向けて、学校・保護者・地域が連携して、子どもたちを育てていこうとするよう取組をさらに進めていく必要がある。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
組織運営	学校教育目標、学年・学級目標の実現をめざして、組織的かつ適切に教育活動を進めているか。	教育目標達成に向けて、日常生活と関連づけながら取り組みを進めることができた。	学校教育目標を基準にして、各学年目標を共通理解し、より具体的な取り組みを行っていく。	学校教育目標に向かって、各学年具体的な目標を掲げて、着実に子どもたちへの教育、保護者への対応がなされている。運動会や音楽会では、多くの制約がある中でも工夫を凝らし、どの学年も児童が楽しみと達成感を得られるものだった。目標を数値化し、何をいつまでにどうする等 PDCA サイクルの充実が必要と思う。
	開かれた学校づくりのために、学校の情報が保護者・地域に積極的に発信され、相互の信頼関係が構築されているか。	学校地域運営協議会を開き、地域の方からのご意見をいただき、連携を深めることができた。	学校からの発信・地域からの発信を更に深めていき、学校運営を進めていく。	コロナ禍で地域との連携行事が限定されてしまったが、熱心な学校支援コーディネーターが学校支援ボランティアとのパイプ役となり、子どもの見守り等で相互の連携と信頼関係が維持されていて、地域の人が学校の活動に関わる機会が多く、開かれた学校になっている。情報発信については、学校だよりの他、さらに積極的かつ速やかな発信を期待している。
教育課程・学習指導	学習指導要領及び年間指導計画に基づいた各教科等の指導が適切に進められ、基礎・基本的な学力の定着が図られているか。	学校行事の予定を変更したことからカリキュラムの見直しを随時行った。難しい環境の中で、授業内容を工夫し、履修達成することができた。	常に、授業時数の確認を行い、各教科の授業時数の確保の適正に務め、学力の定着を図る。	コロナ禍において制約が多い中で、授業時数の確保等、適正に実行されていることは、評価できる。今後は、基礎的な学力が十分定着するように、より細やかな指導体制があるとよい。先生方の行き届いた指導と努力でありがたく思う。コロナ禍において、長期欠席児童に対して、放課後や家庭学習のフォローをしていただいているが、学習を補うことができたかどうかについては、気になるところである。
	児童の特性や教育的ニーズを把握し、個に応じた指導や配慮・支援体制を充実させているか。	コーディネーターを中心に、外部関係機関との連携を図り、手立てについての示唆を得ることができた。	職員の共通理解を図るため、研修会を有意義なものとし、更なる支援体制の充実を目指す。	コーディネーターを中心に、周りの先生方もよく連携ができており、情報共有が進んでいるように感じた。支援体制については、今後さらなる充実を期待している。
生徒指導	自らあいさつができる児童を育て、他者との円滑なコミュニケーションを図ろうとする児童の育成に取り組んでいるか。	全校朝会や学級指導などを通して、意識的に挨拶している児童が増えた。	児童会活動での取り組みや授業の中での協働学習を今後も継続していく。	学校に訪れた際にすれ違う児童がいつも挨拶してくれるので、とても気持ちがいいという意見もあるが、朝の挨拶が気になるという意見もあった。コロナ禍において、挨拶のあり方も変わってきている。適切な指導をお願いする。他学年との交流活動が制限され、他者と関わる機会が減ったため、関係づくりについては、困難であったと思う。児童会活動での取り組みや、授業の中での協働学習の充実を期待している。
	いじめ防止基本方針の下、指導体制を整え、児童の小さな変化を見逃さず、いじめの未然防止・早期発見に取り組んでいるか。	情報共有し、複数での指導体制を実施し、解決策を探った。SSW との連携が今後の課題である。	教師間、関係機関との連携を図り、組織的対応を更に充実させるとともに、個別指導の対応力を高めていく。	情報共有され、連携体制が整っているのは安心できる。担任一人で抱え込むことのないよう、組織的に今後も対応していただきたい。特に新たに、コロナへの人権的な配慮も増えてきている。いじめも含め、しっかり子ども目線での対応をお願いしたい。スクールソーシャルワーカーのニーズが高くなっている。常駐化することはできないのか。

特別支援教育	個々の子ども達の特性に応じた指導体制や指導方法を工夫しているか。	アセスメントの視点をいかし、個別の指導計画を作成し、効果的な支援・指導方法の共通理解を図った。指導補助員・学校生活支援教員を活用し、個に応じた指導に取り組んだ。	児童の課題の多様化に伴い、多様化する教育的ニーズに対応していくため、より一層の連携が必要となる。	先生方が一人一人にきめ細やかに対応している姿がよく見受けられます。とてもありがたいし、すごいことだと思う。しかし関わる支援の先生方の人員が足りていないように感じる。ダイバーシティ(多様化)の時代です。個々の得意なところを見つけ、伸ばす指導も期待しています。これからも保護者の方に寄り添いながら子どもたちの成長へ支援をお願いします。
	共に学ぶ中で、個性や特性を認め合い、支え合おうとする態度の育成に取り組めたか。	配慮の必要な児童に対しての引継ぎを重視しながら、きめ細やかな取り組みを進めた。	交流学习において、教員間の打ち合わせを密にし、情報共有の徹底を図り、支援の仕方を考えていく。	個々の子どもたちへの丁寧な対応により、子どもたちの発達が見守られている。周りの子どもたちも教室の仲間として自然に受け入れているように見受けられる。子どもたちが成長し、長い人生をあかしあ台の中で、差別されることがなく幸せに過ごせるよう環境整備することが地域の課題であるように考えている。
研究・研修	研究主題や実践目標の実現に向け、全職員が協働して主体的、積極的に研究を進めているか。	特別活動に対する制約はあったものの、事前の活動から振り返りまでの一連の活動の過程を共有し、各学級、学年で取り組むことができた。	研究の意義や進め方について、共通理解を図り、個々の教員が実践することを通して、さらに深めていきたい。	教科の学習も大事だが、特別活動に重点を置き、将来、社会で必要な力を学び、蓄積できる機会を増やすことは素晴らしい。一方で、先生方に膨大な時間と労力を費やしていないか気になる。今年は参観の機会が少なかったが毎回、子ども達が興味を持てるよう取り組まれている。授業を地域へ向けて広く公開することによって、先生方の教えることへの工夫や日頃の研究の成果が保護者や委員に見える化され、教えることの大切さと難しさが伝わってくるので、継続してほしい。
	自らの資質向上のために研修に取り組み、日々の実践の分析・評価及び指導方法の工夫・改善に努めているか。	定期的な研修会を実施したことから、共通理解を図ることができ、資質向上にもつながった。	研究してきた特別活動をさらに推進し、情報機器を活用した、個別最適な学びと協働的な学びの実現に取り組んでいく。	研究や研修等の資質向上がより充実するために、教職員が休憩時間を意識してとることで、心身ともにリフレッシュしてのぞんでほしい。今後は、配布されたタブレットを有効に活用して、デジタル時代の教育を進め、あかしあ台小の特徴を示してほしい。
保護者・地域住民との連携	地域人材(学校支援ボランティア等)を活用した教育活動が展開されているか。	コロナ禍において、活動が制限されたものの、地域コーディネーターとの連携を密にし、学校支援ボランティアを活用した有意義な教育活動ができた。	継続した地域コーディネーターや学校地域運営協議会との連携の充実を図る。	ミシンボランティアや絵本の読み聞かせボランティアなど、地域人材を活用した学習ができています。コロナ禍の状況でも、配慮しながら上手く、地域人材を活用できる活動に取り組めた。地域の人々も高齢者が増え、無理のないボランティアができればと思う。

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
令和3年7月	前期児童アンケート実施
令和3年12月	後期児童アンケート・保護者アンケート実施
令和4年2月	学校評価の結果・分析をもとに成果と課題の検証

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
令和3年7月8日	第1回学校地域運営協議会(学校経営方針等について意見交換)
令和3年11月4日	第2回学校地域運営協議会(取組、アンケートについて意見交換)
令和3年10月23日	運動会(児童の様子を参観)
令和3年11月20日	音楽会(児童の様子を参観)
令和4年3月3日	第3回学校地域運営協議会(学校評価結果に基づく成果と課題等について意見交換)まん延防止等重点措置により中止、文書で委員からの意見を聴取した。

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
令和3年11月	学校だより	前期児童アンケートの結果と考察を掲載した学校だより「学校評価特集号」を全家庭に配付	資料1
令和4年3月	学校だより	後期児童・保護者アンケートの結果と考察及び学校地域運営協議会委員の意見を掲載した学校だより「学校評価特集号」を全家庭に配付予定	
令和4年3月	学校ホームページ	学校だより「学校評価特集号」を掲載予定	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います